

■11月14日

国交省、仙台空港民営化、基本スキーム公表

(河北新報によると)

宮城県が目指す仙台空港の民営化について、国土交通省は13日、民営化の実施方針の素案となる基本スキーム案を公表した。民営化の開始予定は2016年3月とした。スキーム案に対する意見や提案を12月20日まで募り、来年4月に実施方針を決定する。

国交省によると、運営権を移譲する事業者の募集要項は14年7月に発表する。応募資格は、国内外で商業施設や公共施設、旅客運送などいずれかの運営経験がある企業・団体とした。

同年9月の1次審査で3者程度に絞り、2次審査を経て15年3月に事業者を決める。事業者の選定は審査委員会が担当する。委員のメンバーは国交相や宮城県知事、有識者らを想定する。

民営化は、15年9月に仙台空港ビルなど周辺施設を先行実施する。滑走路の維持管理や警備などの空港業務を6カ月かけて引き継ぐ。事業者に空港業務の経験があれば、民営化の時期が早まる可能性もあるという。

事業期間は30年間としたが、最大で30年の延長ができると定めた。20～25年後に仙台空港ビルの大規模改修が必要になるため、事業者の設備投資意欲を損なわないよう配慮した。

仙台空港アクセス線に関しては、運営事業者が空港と同時期の民営化を希望した場合、国の承認を得れば可能とした。

国交省航空ネットワーク企画課によると、これまでに約20の企業・団体から問い合わせがあったという

(河北新報)11/14

<http://www.kahoku.co.jp/news/2013/11/20131114t11010.htm> (->

<http://www.kahoku.co.jp/news/2013/11/20131114t11010.htm>)

羽田空港、国内線第2ターミナル、国内—国際線乗継施設新設

日本空港ビルデングは12日、2014年3月末から羽田空港国際線の発着回数が年間3万回増加することに伴い、国内線と国際線を乗り継ぐ旅客の増加が予想されるため、国内線第2ターミナル内に国内線・国際線乗り継ぎ施設を新設すると発表した。

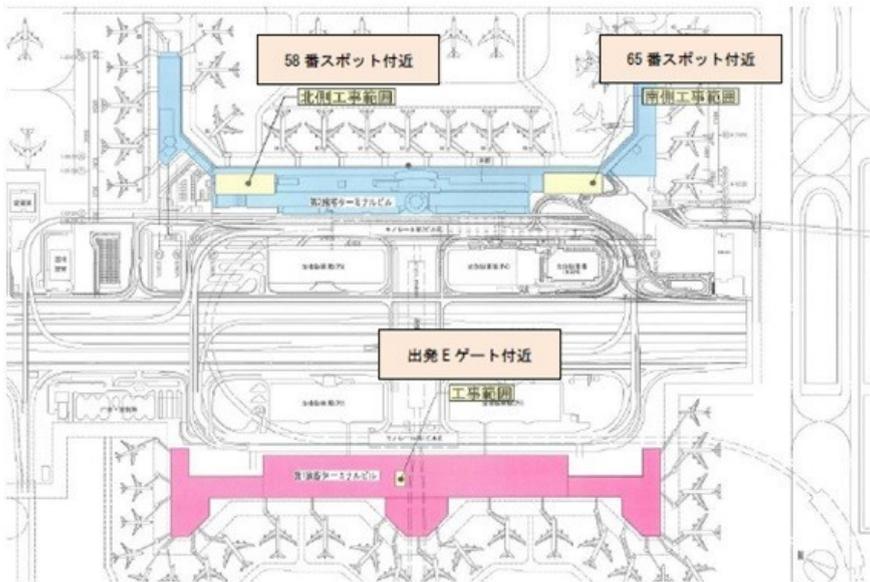
第2PTBでは現在は、国内線と国際線を乗り継ぐ利用者は一旦制限エリア外に出て、ターミナル循環バスやモノレールなどによって移動する新施設が完成すると、制限エリアを通るランプバスを利用して、両ターミナル間を行き来できるようになる。第2PTBの乗り継ぎ施設新設場所は、同PTBの南北2カ所(58番スポット付近、65番スポット付近)、到着コンコースからバスラウンジへ直接行ける動線をつくる。また、今回の施設整備に伴い、第2PTBを使用する全日空は、第2PTBと国際線ターミナルを制限エリア内で結ぶランプバスを走らせる。

(日刊航空)11/13

<http://www.da-news.co.jp/xhp/today.htm> (-> <http://www.da-news.co.jp/xhp/today.htm>)

(日本空港ビルディング プレスリリース)11/12

http://www.tokyo-airport-bldg.co.jp/files/whats_new/504_1112_0153.pdf (-> http://www.tokyo-airport-bldg.co.jp/files/whats_new/504_1112_0153.pdf)



new Image << 新しい写真付き文章 >>

NAA夏目社長、羽田国際増枠、成田需要への影響、前回の10%を超える見込み

(日刊航空によると)

成田国際空港株式会社(NAA)の夏目誠社長は12日の中間決算説明記者会見で、2014年3月末からの羽田空港国際線2次増枠による影響について、「現時点で、(羽田増枠に伴い)航空会社が成田空港発着の重複路線をどうするかははっきりしていない。ただ、経験値として、2010年10月の羽田空港1次増枠に伴う再国際化による成田空港への影響は、旅客数で10%(のマイナス影響)があった。今回の2次増枠は、昼間時間帯かつ欧米東南アジア路線の増加なので、前回の10%の影響よりも、より大きい影響になるのではないかと」の見込みを語った。

(日刊航空)11/13

<http://www.da-news.co.jp/xhp/today.htm> (-> <http://www.da-news.co.jp/xhp/today.htm>)

新千歳空港、利用客堅調、10月末現在106万人突破

新千歳空港国際線の今年の乗降客数が好調に推移している。10月末現在で106万人を突破し、過去最高だった昨年の年間107万9400人を、11月中にも超えることが確実にになった。

苫小牧民報によると、札幌入国管理局千歳苫小牧出張所のまとめでは、1—10月に新千歳空港を利用した国際線の乗降客数は前年比16.4%増の106万1200人。中でも10月は前年比26.5%増の10万2600人だった。国交省新千歳空港事務所がまとめた1—9月の路線別乗降客数は、台北線が前年比10.6%増の32万1668人、ソウル線3.3%増の25万4254人、香港線が12.3%増の15万2345人といずれも好調。昨年10月にタイ国際航空が就航したバンコク線も、7万6132人と順調に推移している。

加えて、中国南方航空が12月3日に週4往復で広州線に就航。同23日からティーウェイ航空(LCC)の仁川線(1日1往復)も就航する。

(苫小牧民報)11/13

<http://www.tomamin.co.jp/2013117050> (-> <http://www.tomamin.co.jp/2013117050>)

日航、全日空、ジェット燃料、自社輸入を検討

日航やANAホールディングスが、国内の石油元売り各社からの調達価格が上昇する懸念があることから、成田空港向

けの保税ジェット燃料について自社で輸入することを検討していることが明らかになった。早ければ来年度にも取り組む。

Bloombergによると、日本航空広報部の城戸崎和則氏によると、同社は過去に成田空港向けにジェット燃料を輸入していた実績がある。しかし、国内石油各社からの調達が入力価格を下回ったために、2007年以降は輸入を見合わせている。現時点でも国内調達価格は、韓国からの海上運賃などを含めた輸入価格を下回っている。

城戸崎氏は製油所の能力削減が今後も継続する見込みであることから「今後国内価格が上昇することを懸念しており、常に内外価格差についてはアンテナを張り、輸入再開の必要性を見極めている」と電子メールでコメント。14年度以降の本格的な輸入再開を検討しているという。

ANAホールディングスの広報担当野村良成氏も、同社としては燃料輸入の実績はないものの「ジェット燃料価格が高止まりしている環境下で、選択肢のひとつとして検討している」と話した。

(bloomberg) 11/(-) 14

<http://www.bloomberg.co.jp/bb/newsarchive/MVH40U6KLV5401.html> (->

<http://www.bloomberg.co.jp/bb/newsarchive/MVH40U6KLV5401.html>)

HIS、ロシア-那覇、アエロフロート航空によるチャーター便を計画

大手旅行社のエイチ・アイ・エスは、ロシアのウラジオストク、ハバロフスクの2都市と沖縄を結ぶチャーター直行便を、来年5月から週1往復計4便、半年間就航することが12日、分かった。アエロフロートロシア航空による運航で、使用機材はボーイング737-800型(座席数150)。半年間で5千人の受け入れが目標とする。尚ロシアと沖縄のプログラムチャーターの実施は初めて。

沖縄タイムスによると、運航期間は5月中旬～7月中旬と、夏場のトップシーズンを除く9月上旬～11月下旬。両路線とも片道約4時間の飛行となる。

ロシア人観光客の旅先での平均滞在時間は2週間で、1人当たりの平均消費額は2千ドル(約20万円)と旺盛。このため、宿泊数を1～2週間程度と長めに設定し、30～50代の富裕層をターゲットに「極東ロシアから一番近い高級リゾート」として売り出す。

(沖縄タイムス)11/13

http://article.okinawatimes.co.jp/article/2013-11-13_56563 (-> http://article.okinawatimes.co.jp/article/2013-11-13_56563)

デルタ航空、Twitter日本語版「デルタアシスト」開始

デルタ航空は12日、リアルタイムで顧客サポートを行うTwitterアカウント「@DeltaAssist」の日本語版アカウント、「デルタアシスト(@DeltaAssist_JP)」のサービス開始を発表した。

https://twitter.com/DeltaAssist_JP (-> https://twitter.com/DeltaAssist_JP)

日本時間の平日午前8時から午後8時まで、顧客サポート専任スタッフ3名体制で運営を行う。

日本語版デルタアシストは、英語、スペイン語、ポルトガル語に続く4番目の言語でのサービスとなる。

(デルタ航空 プレスリリース)11/12

<http://delta.jp.mediaroom.com/index.php?s=43&item=1291> (-> <http://delta.jp.mediaroom.com/index.php?s=43&item=1291>)

(FlyTeam)11/13

<http://flyteam.jp/news/article/28821> (-> <http://flyteam.jp/news/article/28821>)

マンダリン航空、関空—台中線、定期チャーター便就航、週5便

チャイナエアラインの子会社であるマンダリン航空は11月27日から、関空—台中間で定期チャーターを開始する。使用機材はエンブラエル190型機(エコノミークラス104席)で、週5便を運航する。

関西空港から台湾へは、既存の台北—高雄線に加え3都市目の就航となり、関空—台中間を結ぶのはこれが初めて。

(トラベルビジョン)11/13

<http://www.travelvision.jp/news/detail.php?id=59542> (-> <http://www.travelvision.jp/news/detail.php?id=59542>)

(関空プレスリリース)11/12

http://www.nkiac.co.jp/news/2013/1842/ae_kixtaichu.pdf (-> http://www.nkiac.co.jp/news/2013/1842/ae_kixtaichu.pdf)

ポンサワングループのオッド・ポンサワン会長、ラオ・セントラル航空、日本乗り入れを計画

ラオスの新興財閥で、同国初の民間銀行や民間航空会社を擁するポンサワングループのオッド・ポンサワン会長(57)は、自ら社長を務めるラオ・セントラル航空の日本への早期乗り入れを計画している事を産経bizのインタビューの中で明らかにした。

—以下産経biz一部抜粋—

—ラオ・セントラル航空は2010年の設立からちょうど3年だが、今後の目標は

「まず、日本への乗り入れを実現することだ。すでにラオス政府からは、日本に対して航空協定を早期に締結したいという意思を伝えてある」

—協定の締結時期にもよるが、乗り入れの目標は

「2014年末か、15年初めには飛ばしたい」

—国営ラオス航空も乗り入れを計画している。仮に日本路線を開設したとして、共倒れになる可能性はないのか

「ラオスに観光客など多くの人を呼び込むには、お互いに協力することが必要だ」

—ラオ・セントラル航空が目指す航空会社の姿は、格安航空会社(LCC)ではないのか

「シンガポール航空のようなフルサービスが目標だ。ただ、コストを減らし料金を20~30%安くする。同時に質の高いサービスを提供することで、中間層の客を取り込みたい。機材もすべて新品だし、ボーイング777-200と737-800を新たに2機ずつ導入する計画だ。パイロットは欧米を中心に10年以上の経験を持つ外国人ばかりだ」

—すでにロシアからスホーイを購入しているようだが、低料金だと採算を取るのが難しいのではないのか

「B737-800クラスだと、80%の搭乗率を確保できれば十分利益は出る計算だ」

—ラオス政府も空港整備に力を入れている

「政府は16州に1つずつ空港を作る計画だ。さらに現在のワッタイ国際空港の改修と、ビエンチャンの新空港建設計画も進んでいる。新空港は長らく検討されてきたものだが、完成すると、現在のワッタイ空港の10倍の広さだ。2つで機能分担することになる」

(産経biz)11/14

<http://www.sankeibiz.jp/macro/news/131114/mcb1311140505018-n3.htm> (->

<http://www.sankeibiz.jp/macro/news/131114/mcb1311140505018-n3.htm>)

新関空会社、2014年3月期連結業績見通し、最終利益103億円に上方修正

新関西国際空港会社は13日、2014年3月期の連結業績見通しを発表した。これによると、売上高1,235億円、営業利益289億円、経常利益175億円、当期純利益103億円を予測。2012年度業績と比べると、売上が21%増加、営業利益で8%増加する。営業利益率は23%となる。

同社

業績の前提となる2013年度通期運用実績の見通しについて、関空での業績は当初予想よりも落ち込むものの、伊丹空港の発着回数や旅客数は想定以上に伸びるとした。

新関空会社は、2013年度通期の関空の運用実績見通しを、発着回数が当初見込みの15万回から13.2万回へ下方修正、航空旅客数は1,870万人から1,790万人に修正した。一方、伊丹空港の予測を当初の発着13.5万回・旅客数1,330万人を発着13.9万回・旅客数1,400万人に上方修正する。

(日刊航空)11/14

<http://www.da-news.co.jp/xhp/today.htm> (-> <http://www.da-news.co.jp/xhp/today.htm>)

(新関空会社 プレスリリース)11/13

<http://www.nkiac.co.jp/news/2013/1843/2014cyuukankessan.pdf> (-><http://www.nkiac.co.jp/news/2013/1843/2014cyuukankessan.pdf>)**5** 2013年度の連結業績見通し

	2013年度				2013年度			当初比 (OATG 除く)	2012年度 実績	前年比	
	修正予想	関空	伊丹	OATG	当初予想	関空	伊丹				
営業収益 (百万円)	123,500	97,300	14,000	15,700	112,900	99,900	13,000	109%	99%	101,769	121%
営業利益 (百万円)	28,950	22,000	6,500	450	27,700	23,200	4,500	105%	103%	26,792	108%
経常利益 (百万円)	17,550	-	-	-	13,000	-	-	135%	-	18,048	97%
当期純利益 (百万円)	10,300	-	-	-	7,900	-	-	130%	-	-	-
航空機発着回数 (万回)	27.1	13.2	13.9	-	28.5	15.0	13.5	95%	-	25.6	106%
航空旅客数 (万人)	3,190	1,790	1,400	-	3,200	1,870	1,330	100%	-	2,995	107%

※2013年度修正予想は、連結相殺後の数字であるため、各内訳の合計とは一致しない。

※OATグループは、2013年度下期分。

・航空機発着回数は、上期実績及び冬期スケジュールを勘案して、当初見通しと比べ1万4千回の減少の27万1千回、航空旅客数は、ほぼ当初見通し通り3,190万人と見込む。

・営業収益は、上期の実績及びOATグループ連結対象化を勘案し、当初見通しと比べ106億円の増加となる1,235億円、営業利益は13億円の増加となる290億円を見込む。